

団体名	公益財団法人 滋賀県国際協会	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
事業費総額	1,014千円		子ども・教育

事業名 外国にルーツを持つ子どもへの教育支援事業2016 ～ 教育支援から就労支援へ ～

特徴 進路ガイダンスおよびキャリア研修を実施することで、子どもたちの進路選択の幅を広げるとともに、経済団体への多文化共生に対する意識づけのきっかけとなった。

事業のポイント

- ◇ 南米出身者のみならず多様化している外国にルーツを持つ子どもと保護者を対象に、中学校卒業後の進路に関する情報を広く提供し、早い段階から将来設計をするよう啓発し、一人でも多くの子どもが夢に向かって歩めるようサポートする。
- ◇ 第一線で活躍する先輩と直接話す機会を通して子どもたちのエンパワメントを図ると同時に、雇用する側である経済団体関係者に視察を促すことで実態を理解し、彼らもまた地域の大事な人材であるとの認識を持ってもらうことを目指した。
- ◇ 学校現場での日本語指導員や母語支援員を対象にDLAに関する講座を開催した。

事業の背景・目的

- ◇ 高校進学を果たしても、卒業、進学へのモチベーション維持は難しいため、目標となる具体的な将来モデルを示し、彼らのエンパワメントを図る機会を継続して提供している。
- ◇ 外国にルーツを持つ人々が、日本国内において安定した就労環境につくことは、ひいては日本社会の安定につながるという発想が広く認められ、定着することが望まれる。
- ◇ 企業関係者や日本で働く外国人の中からは、「日本で暮らしていくのであれば、雇用の前に日本語力を身に付ける必要がある」との指摘があり、子どもの段階から適切な日本語指導・学習指導を受けることが求められている。

事業の概要

- [1] 多言語での進路ガイダンスの実施および多言語進路資料の作成
- ① 未来のための進路ガイダンス～中学を卒業したらどこで何をするの？ 開催 高校進学に向けたガイダンス（内容：先輩の話、滋賀県教育委員会による進路説明、進路相談）の開催。
○草津会場 9/11（日）48人参加 ○長浜会場 10/30（日）28人参加
 - ② 多言語版進路資料の作成、配布
進路ガイダンスでの配布および、各市町教育委員会、学校からの依頼に基づき発送。 ※当協会 Web サイトよりダウンロード可
・「未来のための進路ガイダンス2016」
・「夢への作戦会議シリーズ」（職業案内）
言語：日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語
- [2] 外国にルーツを持つ高校生へのキャリアデザイン研修
「職業人と語る会」の実施
社会の第一線で活躍する先輩方に直接話を伺う機会となる「職業人と語る会」を実施。
開催日・会場：7月21日（木）野洲市内
参加者：生徒 44人（※公立高校、ブラジル人学校在籍生徒含む）
ゲスト：職業人ゲスト 14 職種 + 現役学生 計17人
見学者：経済団体関係者 5人
〔 滋賀経済団体連合会、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀経済産業協会、滋賀県商工会連合会、びわこビジターズビューローより職員各1名 〕
- [3] 外国にルーツを持つ子どもへの日本語指導者養成講座の実施
開催日・会場：8月19日（金）大津市内
参加者：42人（加配教員、日本語指導講師、母語支援員、ボランティア他）
テーマ：「外国人児童生徒のためのJSL 対話型アセスメント DLA による言語能力の測定方法と指導方針の組み立て方」

【事業経過】

2004年度	進路ガイダンス事業立ち上げ、進路資料作成
2005年度～	進路ガイダンス開催開始（以降、継続開催、資料更新随時）
2012年度	// キャリアデザイン研修事業立ち上げ、職場見学・先輩と語る会実施
2013年度	// 職業人と語る会、職場見学・ビジネスマナー研修実施
2014年度	// 職業人と語る会、ブラジル人学校へのキャリア教育出前授業実施
2015年度	// 職業人と語る会実施、CLAIR・JIAM 実施研修の受入
2016年度	// 職業人と語る会実施、経済団体職員視察の受入



進路ガイダンスの様子



職業人と語る会の様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

- ◇ 県域で唯一の多言語での進路ガイダンスであり、県教育委員会と市町教育委員会をはじめとする関係機関やNPO団体との協働で実施をしている。また、外国にルーツを持つ青年や留学生などがスタッフとして協力してくれたことが、参加者にとっての励みや身近なモデルとなった。
- ◇ 当協会が作成した進路資料を活用し、校内で外国にルーツを持つ子ども向けの進路説明会を開催するところも出てきており、学校や関係機関との連携が促進されている。
- ◇ 「職業人と語る会」参加生徒のアンケート結果から、「進路を考えるきっかけになったか？」の問いに「とてもなった・なった(93%)」、「学ぼうという気持ちになったか？」の問いには「とてもなった・なった(97%)」との回答が寄せられた。特に、参加者の半数から、「日本語の学習を頑張りたい」との回答があった。
- ◇ ブラジル人学校でのキャリア教育の出前授業を見学した際、講師が、現在関心のある職種は何かと尋ねたところ、介護福祉士や自動車整備士を挙げた生徒がいた。理由を尋ねたところ、「将来、人のためになる仕事に就きたい。夏に参加した『職業人と語る会』で実際に介護や自動車整備について話を聞いたことで、この職業に興味を持った」と答えていた。当該事業への参加を契機に、今までの選択肢にはなかった職種に関心を持つことができた生徒がいたことがわかり、大変うれしく感じた。
- ◇ 滋賀経済団体連合会の事務局に当該事業への視察を働きかけた結果、職員研修として少数ではあったが視察に来てもらうことが実現した。視察の前には在留外国人の抱える現状・課題についてレクチャーを行った後、見学してもらった。視察した経済団体の職員からは、「様々なルーツを持った人たちが、個性を活かして暮らせる滋賀を経済界も含めた皆で考える必要がある」との感想が寄せられた。
- ◇ 学校現場で日本語指導や学習指導を担当する多くの日本語指導者が、DLAについて直接学ぶ機会が少なく、県外も含めての参加者があり、実践的な講座内容に大変満足したという感想をいただいた。
- ◇ DLAの測定教材もすぐ使えるように準備し配布したことと、実際にこれらを使った講座を開催したことで、参加者が現場に戻ってすぐに活用できる工夫をした。今後の指導方法の組み立て方も含め、「具体的なイメージが出来た」という声も多く、効果的な内容となった。

今後の課題・将来に向けての展望等

- ◇ 日本社会での就職活動の経験や、日本人と共に働く機会のあまりない外国ルーツの保護者たちは、子どもの進路に対して相談相手になりにくい状況であることは否めない。正規雇用と非正規雇用の違いや、労働者の持つ権利についての情報を持ち合わせていなかったり、子どもが希望する職種への進路に関する情報や教育費の準備についてなど、保護者が知っておくべき知識について得られる場が現状としてはほとんどないので、保護者が情報を得る機会を提供することは今後も必要である。
- ◇ 子どもの希望とは裏腹に、中学や高校を卒業したらすぐに派遣会社に登録・就職することしか想定していない保護者もいるので、子どもの将来の夢が閉ざされるケースも少なくない。子どもの進路には、保護者が大きな影響力を及ぼすので、保護者にこそ、子どもたちの未来について前向きになれるよう身近なモデルを示すことや、有益な情報を伝える場は重要であると考えられるので、一人でも多くの保護者に参加してもらえる工夫を検討していきたい。

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 本事業を通して、「直接出会うこと」の大切さと、訴える力の大きさを感じる。協力を求めたい人や、現状改善に向けて巻き込みたい人たちなどと実際に出会い、ご本人たち自身で見聞きしてもらうことが、どんなに言葉を重ねて説明するよりも有効だと実感している。
- ⇒ 地域において、外国にルーツを持つ人たちと共に学び、共に働き、共に暮らすことが、至極当たり前であるという認識がさらに広まり、すべての人が安心して安定した生活が送れるような多文化共生社会の実現を願っている。



京都新聞 7月22日(金) 掲載



DLA 日本語指導者養成講座